

# 日本歯科新聞

2011年(平成23年)

4月5日

&lt;発行所&gt;

日本歯科新聞社

〒101-0061

東京都千代田区三崎町2-20-4

電話03(3234)2475

FAX03(3234)2477

http://www.dentalnews.co.jp/

jdn@dentalnews.co.jp

年間購読料18,900円(税・送料込)

郵便口座番号00120-5-130369

厚生労働省記者クラブ加盟社

## 投稿

### 衛生士が津波に：院長の無念

名古屋市長 鈴木俊夫

東日本大震災の災害は阪神淡路大震災をはるかに超えている。地震で壊れ、そこへ津波、火災、そして原発の倒壊と、すべての災害が一度に重なった。被災された方には言葉が思い浮かばない。一日でも早い復興を祈念します。

阪神淡路の時には、距離的に近いこと、神戸市の行政や保健所

始め歯科医師会にも知人がいたため、ほとんどお手伝いではできなかったが毎週のように出向していた。そこで、まず勉強したのは、ラフラインが破綻した時にはどうするか、避難所はどこにあるかということであった。この経験から筆者は自分なりに避難先を家族と決めた。

今回の震災でも、行政主導の避難所へ避難した方々の多くが、津波にのみまれてしまった。

知人であるA歯科医院の院長は、診療所ごと津波に襲われて命を落とされた。

また、B歯科医院では、訪問歯科衛生指導で施設に出向いていた歯科衛生士が津波に襲われ、行方不明となった。B歯科医院の院長は遺体安置所を回り、遺体の歯式を取りながら、歯科衛生士を捜した。そして、ある遺体安置所で、制服姿の歯科衛生士を見つけ、彼女の姉

と身元確認をした。その時の無念さは想像するに難くない。

しかしそうした一方で、名取市に在住する知人の元保健師長は、連絡が取れず心配していたが、高台に自宅があったため被災しなかったことが分かり、安心した。

そして、海岸近くの保育園では、津波がくると予感した園長が職員の手をすべて使い、園児全員を乗せて高台に行った直後に津波が押し寄せ、全員無事だった。さらにJRでも乗務員の機転で、乗客を誘導して高台に逃げた直後に津波が

きて全員無事だったとのこと。

こうした危機状況での結果はリーダーの機転と日ごろからの知識が決まる。同様のことが歯科医師会にもいつ起きるか分からない。日ごろからさまざまな知識を身に付け、リーダーが道を誤っても生き残れるようにしておかなくてはならないが、それ以前に、優秀なリーダーが育つ歯科医師会になっていただきたい。

平成24年度の医療費改定が津波に襲われて、波間に消える結果だけにはしたくないものだ。